

思い通りにいかなくても我慢しなくては いけないことは沢山あるもの



会社に入ると上司や先輩等から怒られることが一度ならずあると思います。そんな時カッとなって会社を辞めてしまうということが最近の若者にはありがちです。新入社員が仕事上で失敗した時等に上司から怒られるのはやむを得ないことです。会社は給料をもらっている以上、給料に見合うきちんとした仕事をしなくては困ります。上司等に叱られ、明らかに自分が悪いと思うことはきちんと改めなくてはならないことは誰しも理解できると思います。仕事になれない時期に上司等に注意されたり怒られたりすることは一面幸せです。

職場内での上司には二つの大きな仕事があります。一つは会社の業績目標を達成させること、二つめは部下を育成し、よりすぐれた社員に成長させることです。そのために時には無理と思われる目標を提示したり、君達を叱ったりすることがあるでしょう。そうした上司に不平不満を言う前に上司の立場を考え、上司からの注意は率直に謙虚に聞くことが大切でしょう。

たしかに、一度注意されても同じようなことを繰り返し、注意が重なると怒る方も怒られる方も感情的にこじれてくることありがちです。人間の感情というもの単純ではないことも確かです。しかし会社は給料をもらっているのです。それだけに厳しさが要求されます。学校の先生に怒られ反発するようつもりでいたのでは、どこの会社に移ってもやっていかれません。社会に出れば、思い通りにいかなくても我慢しなくてはいけないことは沢山あります。怒っている上司の立場になってみると、その気持ちが分かるはず。上司や先輩にちょっと怒られたからといって簡単にカッとなり、会社を辞めるようなことは絶対避けたいものです。「短気は損気」。明らかに自分に非があると気がいたら、早めに、素直に謝ることも社会人として心がけなくてはなりません。自分の意地を張り突っ走ることは厳禁です。



社会人としてのマナー講座3

聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥

仕事をしていくうえで色々分からないことにぶつかるでしょう。その時に上司や先輩に聞くのを恥ずかしがり、自分の独りよがりな判断で仕事をしたためにかえって取り返しの付かない大きな問題を発生させるということは起こりうることです。新入社員であれば色々分からないことがあるのは仕方がないことです。分からなかったり、困ったことにぶつかったら、必ず上司や先輩の指示を仰ぐことが必要です。聞くことは決して恥ずかしいことではなく、むしろ喜ばれることです。

中には十分分かっていないのに知ったかぶりをして、「分かっている分かっている」と上司等の話を生半可に聞くというのも良くありません。会社内で決められたマニュアル通りに仕事をしていれば決して事故は起きなかったのに、と思われるような事故が時々世の中では発生していますが、自分の勝手な判断は禁物です。時には上司等からまた同じことを聞くのかと思われることもあるかもしれませんが、一時の恥にとらわれず、分からないことは素直に聞き、きちんとした仕事をするよう心がけましょう。

指定校推薦入試追加募集の案内

次の学校から指定校追加募集が来ました

北京外国語大学

中文学部 募集人員 若干名 出願期間 及び 選考日 は特に指定なし
詳細は進路指導室 小林先生まで